

学校通信 R4.5.31 6月号

# 中一小だより



中郷第一小学校  
電話 42-4000  
児童数 469名

## 2030年を見据えて

校長 菊地 恵美子

5月21日の運動会は、たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、子供たちの活躍する場面をご覧いただくことができたこと、大変うれしく思います。今年度は、学年種目に加え、ブロック団体種目も行うことができました。今後も、感染症対策を講じながら、子供たちの楽しみにしている行事をできるだけ実施していきたいと思っております。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、6月は落ち着いて学習に取り組むことができる時期です。昨年度の「県学力診断のためのテスト」や今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果、本校の児童は、「学んだ知識・技能を他の教科や新しい課題に活用する力」、「根拠をもって自分の考えを話したり書いたりする力」、「粘り強く取り組む力」等に課題があることが分かりました。つまり、力を入れて育てていかなければならないのは、「思考力・判断力・表現力等」です。そこで、今年度は、「国語力テスト」「算数力テスト」を実施せず、普段の学習で基礎学力を高め、その学力を他教科で活かしていけるような授業研究を行ってまいります。

今、私たちが子供たちに指導している学習指導要領は、2030年を見据えて、平成29年3月に出されました。その頃、よく耳にしていたのが「Society 5.0 (ソサエティ ゴーテンゼロ)」という言葉です。社会は、「狩猟社会Society 1.0」「農耕社会Society 2.0」「工業社会Society 3.0」「情報社会Society 4.0」そして、「超スマート社会Society 5.0」と変化しました。IoT、ロボット、人工知能、ビッグデータ等の先進技術を活用することで新たな価値を創出し、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することのできる時代です。5年前は、「そんなことができるのだろうか？」と半信半疑でした。しかし、今、実際に、5年前に話題になっていたことが実現されつつあります。VRによる仮想空間やドローンによる過疎地への荷物の運搬、自動運転など、世の中はどんどん便利になっています。しかし、ややもすると、人間が機械やロボットに振り回されることもあるかもしれません。そうならないために、このような時代に生きる子供たちに、どのような力を付けていかなければならないのでしょうか。

文部科学省によると、『「人間の強み」を発揮し、AI等を使いこなしていくためには「文章や情報を正確に読み解き対話する力」や「科学的に思考・吟味し活用する力」、「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」が共通して求められる。』と報告されています。

まずは、これまでも行ってきた「語彙の理解、文章の構造的な把握、読解力、計算力や数学的な思考力など基盤的学力の定着」を重視し、ICT機器を活用しながら友達と協働し、「主体的・対話的で深い学び」を実現していきます。そのために、子供たちの学習意欲を高めながら実践していきたいと考えています。家庭学習へのご協力も、よろしくお願いいたします。

# 1年生を迎える会

5月10日（火）に、児童会主催で「1年生を迎える会」を実施しました。当日は、計画委員会による〇×ゲームを楽しんだり、2年生からアサガオの種をプレゼントしてもらったりと、思い出に残る行事となりました。



# 運動会

5月21日（土）に運動会を実施しました。子どもたちは学年や学級ごとに練習を重ねて当日を迎え、その成果を十分に発揮することができました。心温まるご声援をいただき本当にありがとうございました。また、14日（土）には、多くの皆様のご協力のおかげで奉仕作業を実施することができ、素晴らしい環境で運動会当日を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。



# 6月行事予定

期日	予定	期日	予定
1   水	内科検診（5-1、6年）	14   火	第2回PTA運営委員会18:00～ SSW（大田和先生）来校
2   木	内科検診（2-3、3年）		
6   月	尿検査2次	15   水	音楽鑑賞会 SC（藤田先生）来校
7   火	校外学習（5-1）	16   木	授業参観（5校時）
8   水	校外学習（5-2）	23   木	尿検査2次（未提出者）

# 算数力テスト・国語力テスト代替策

昨年度までは、年間を通して全学年統一で当該テストを行うことで、基礎・基本の定着度を確認していました。しかし、実施方法が児童の実態に合っていなかったり、定着度を効果的に確認できなかったり等の課題があったため、今年度からは次の通り学年ごとに実施することとします。

学年	国 語	算 数
1年	評価テストの「ひらがな書きの調査」「かたかな書きの調査」「かんじのまとめ」を90点以上を合格として実施し、合格するまで2回実施します。	「評価テスト」を活用して単元終了後に実施します。朝・補充学習・家庭学習などで2回ずつ実施し、定着を図ります。
2年	漢字ドリルの「力だめし」「まとめ」のページを活用して90点以上合格として実施します。(合格するまで3回実施)計8回実施。国語・算数ともに「頑張りカード」のような物を作成します。	「評価テスト」を活用して、80点以上合格として単元終了後に実施します。(合格するまで2回、計16回実施予定)
3年	毎時間授業の始めに単元の漢字のミニテストを行い、単元テストに取り組むようにします。また、学期ごとの漢字の50問評価テストをプレテスト、本テスト、再テストと繰り返し行い、90点以上合格とします。	
4年	毎授業の始めに漢字小テストを行います。90点以上を合格とし、合格したら次のテストを行います。また、単元テスト80点以下の時は、休み時間などに補充学習を行います。	毎授業の始めに基本的な計算(加減乗除)の練習問題に取り組みます。また、単元テスト80点以下の時は、休み時間などに補充学習を行います。
5年	単元テスト前に単元毎の漢字のミニテストを行い、80点以上を合格とします。(再テストは3回まで)また、月1回学力診断テスト過去問題に取り組み、弱点を分析し、授業中に指導していきます。	単元終了毎に学力診断テスト過去問題を実施します。また、補充学習時には、活用問題を準備し、基礎基本の学習を活用する問題にチャレンジしていきます。さらに、計算力に関しては、家庭学習を中心に計算ドリルを反復学習します。
6年	漢字ドリルの「読む」「書く」ページを活用してミニテストを実施するとともに、自分のペースで練習する時間を設け書ける漢字を増やします。さらに、テストでできなかった漢字はノートに練習をしたり、カードを活用して努力の成果を実感できたりするようにします。	前単元の「たしかめ問題」を活用して、ミニテストを実施します。また、基本・応用を選択し、自分に合った復習・確認を行います。さらに、学習内容の定着ができていない場合、学級ごとに「算数チャレンジ週間」を設定し、朝自習・補充・家庭学習等の機会を使って、集中的に復習を行います。